

授業改善プラン

地域名	南房総教育事務所	学校名	市原市立千種中学校
-----	----------	-----	-----------

1. 課題（これまでの全国学力・学習状況調査結果等から）

○本校生徒の課題は、学力のもとになる思考力や判断力、表現力がなかなか身に付かないところにある。その原因の一つとして基礎的・基本的な知識や技能が十分身に付いていない。全国学力・学習状況調査では、特にグラフと表を関連付ける問題やきまりから求められる計算について文字式を用いて説明することなどに課題が見られる。

2. 取組のポイント（仮説、改善方法等）

- 授業時間ごとの学習内容をその時間内に振り返ることで基礎的・基本的な知識・技能が定着するであろう。
- 授業で学習内容について要点を記述させたり、学習内容を説明させたりする場面を設定することで「学びの自覚化」を促すことができるだろう。
- 「目に見える振り返り」「自分で自分が学んだことを書く振り返り」を繰り返し実践することで基礎的・基本的な知識・技能が定着するであろう。
- 全教科で「振り返り」に取り組むことにより生徒の基礎的・基本的な知識・技能が定着するだろう。

3. 具体的な実践

- (1) 数学科の取組
- ① 「目に見える振り返り」をテーマに授業の中での振り返り場面を意図的に設定した。
 - ② 過去の全国学力・学習状況調査や入試問題を参考にして、振り返りを手立てとした授業研究を実施した。
 - ③ 毎時間の授業の終わりに「自己評価カード」を活用し、「わかったできた」ではなく、生徒自身の言葉で「何がわかったか」「どんなことができたのか」を記入させた。
 - ④ 「振り返りテスト」「振り返りシート」を活用し既習事項の定着を確認した。またそれを活用し放課後の10分補習の参加者を選出し、毎日プリントによる補習を実施した。
- (2) 他教科の取り組み
- ① 定期的に教科部会を開催し、「振り返り」の検討、実践をしている。さらに全職員で実践内容を共有した。
 - ② 南房総教育事務所の指導主事を招聘し、「振り返り」を取り入れた授業研究会を実施した。

4. 成果

- 2年間の取組により、自己評価カードや振り返りシートの記入が「わかった」「できた」ではなく、具体的に生徒自身の言葉で「自分が学んだこと」「学習して分かったこと」等が表現できるようになってきた。
- 過去の全国学力・学習状況調査や入試問題を参考にして、振り返りの活用を目的とした授業研究を推進したことにより、学んだことを振り返りながら長文問題にも粘り強く取り組む生徒が増えてきた。
- 全教科で「振り返り」に取り組む、学習内容を自分自身の言葉で表現することができるようになってきた。

◆担当指導主事から（南房総教育事務所 指導主事 榎本 正信）

○千種中学校は『「目に見える振り返り」から「学びの自覚化」を促す』をテーマとした授業改善に取り組まれました。学んだことを自分の言葉で記述する「振り返りシート」から、生徒の変容が見て取れます。さらに「振り返り」を他教科にも広げるなど、学校全体で生徒の育成を図ろうとする姿勢は特筆に値します。